

特集

これまでの取り組みで
一定の成果が上がる

これまでに取り組んできた行財政改革の結果、
笠岡市は経常収支比率などの指標で、以前に比べ
健全な状態になってきました。

☆ 笠岡市の財政指標の推移 ☆

	平成15年度	平成16年度	平成17年度
経常収支比率	92.2%	89.4%	85.3%
公債費比率	19.0%	18.2%	15.9%
起債制限比率	12.7%	12.1%	11.4%
実質公債費比率(単年)	26.2%	25.0%	22.4%
実質公債費比率	—	—	24.5%

※実質公債費比率は、平成17年度決算から導入された
新しい指標で、通常は3年平均の値を使いますが、前
年度・前々年度との比較対象をするため、単年の値も
表示しています。

☆ 財政健全化計画の実績 ☆

	削減額
平成15年度	約2億2600万円
平成16年度	約5億5300万円
平成17年度	約8億8300万円
合計	約16億6200万円

平成15年7月に策定した「笠岡市財政健全化
計画」に基づき、3年間で約16億6200万円
の経費を削減することができました。

財政健全化計画

市民生活を守り安定した笠岡を創るために

笠岡市では、平成15年度に財政健全化計画を策定し、市民の皆さんのご理解とご協力により、これまで積極的に行財政改革に取り組み、想定した以上に健全化を図ることができました。しかし、少子高齢化社会の進展などにより財政需要は増しており、今回見直した試算では、市税や地方交付税などの歳入の減少と扶助費の増大、市民会館の改修など歳出の増大によって、笠岡市財政の危機的な状況は依然として続いています。このような状況に対応するため「笠岡市財政健全化計画」を今年度も見直し、更なる財政健全化の実現を目指して着実に実行していきます。

財政用語解説

経常収支比率



経常収支比率は、毎年決まって入る収入が、毎年決まってかかる支出にどれだけ割かれているかを示す指標です。70～85%が望ましいとされています。

公債費比率



市債（市の借金）の返済にどれだけお金を使っているのかを示す指標です。比率が高まり一定値を超えると、市債の発行に制限がかかります。収入がローンの返済ばかりに取られては、他のことができなくなってしまうのと同じです。安全ラインは15%以下です。